睦沢町 ため池ハザードマップ

大坊谷堰・入山津堰・小谷堰・猿田の堰

▶氾濫シミュレーションについて

本ハザードマップ作成にあたり、万が一の事態でため池が決壊した場合、最大でどの程度の被害範囲となるかを知るために、最悪の状況を想定した被害予測を行いました。

(1) この図は、大坊谷堰・入山津堰・小谷堰・猿田の堰（ため池）が決壊し、全ての水が下流へ流れてきた場合の浸水想定区域と、当該区域が浸水した場合に想定される水深を示したものです。
(2) この浸水想定区域は、大坊谷堰・入山津堰・小谷堰・猿田の堰（ため池）が満水状態で大雨又は大地震等により決壊した場合の状況を、シミュレーションにより求めたものです。
(3) このシミュレーションの実施にあたっては、河川の氾濫、内水（河川に排水できずに氾濫した水）氾濫、想定を超える降雨による氾濫等を考慮していませんので、この浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

▶氾濫シミュレーションの条件

シミュレーションは、最大規模の氾濫を想定しています。
決壊時の水位は満水位とし、大雨や大地震等により最大決壊断面に瞬時に達し、その後全貯水量が流れ出すとしています。
決壊を仮定した地点は、流出量の大きくなる堤防の高い場所とし、氾濫水の追跡計算は、地形を 5mの格子で表したモデルを用いて行っています。

▶ ため池の役割

ため池は、雨が少なく、大きな河川から離れた地域等で、農業用水を確保するために、水を貯めておく人工的な池のことです。

水辺空間の形成
都市化の進行や開発によって緑や水辺空間が減少する中、水に親しむことのできる場所を提供しています。

農業用水としての役割
雨が少ない地域では、古くから農業用水をため池に貯め、利用しています。

防災としての役割
適切に管理することにより、大雨時の洪水調節や、火災時の防火用水としての役割があります。

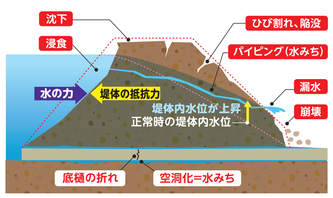
▶ ため池の決壊メカニズム

ため池の決壊は、大雨や地震、ため池の老朽化により発生する可能性があります。

大雨のとき
集中豪雨や長雨により、ため池の水位が上昇し、堤に浸透する水の量が増え、ため池決壊の危険性が高まります。また、流木などにより、ため池の余水吐がふさがれると、ため池が満水となり、水が堤からあふれ出し、堤が浸食され、決壊に至るおそれがさらに高まります。

地震のとき
大地震では堤に亀裂や漏水、沈下が生じる可能性があり、強度低下により、水圧に耐えきれず決壊することがあります。
また、その後の余震で決壊することがあるため注意が必要です。

▶ ため池が危険なとき



【地震のとき】
地震により、堤体がクラック（裂け目、ひび割れ等）、沈下、斜面崩壊、斜面すべり等で破壊あるいは損傷され、決壊に至ります。

【大雨のとき】
堤体が痛むと、堤体内の途中や底に水みちができ、決壊する場合があります。堤体全体に水が浸透し、堤体内の強度が弱まり、法面にすべり破壊が発生します。豪雨により、堤体内水位が急激に上昇し、堤体を越えて流れ出し、外側の法面が破壊され、決壊する場合があります。また、水の力が上昇し、堤体内を侵食し、決壊する場合があります。

▶浸水の深さと避難行動

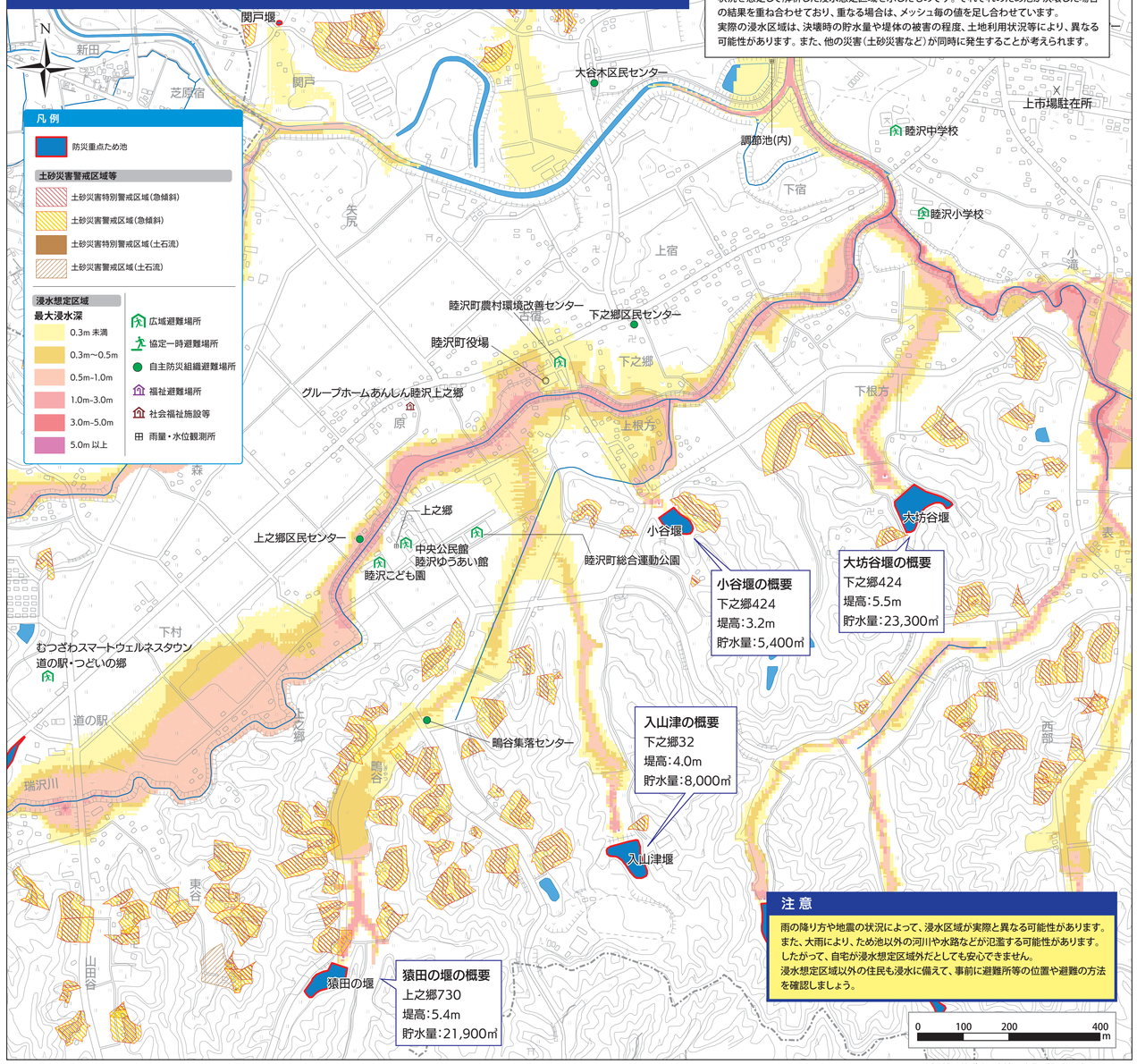
ハザードマップに示す浸水の深さを参考に、基本的な避難の仕方を考えましょう。
ため池が決壊すると、短時間で浸水する場合があります。状況に応じて判断し、身の危険を感じたら速やかに避難して下さい。

❶ハザードマップで周辺の最大浸水深を確認	❷どこへ避難するのかを判断	❸以下に注意して避難
3.0m 以上の浸水 ●2 階以上が浸水 ●水流が強い場合には、木造住宅が倒壊する危険がある	水平避難 浸水しない場所（避難場所・道路・空き地・高台など）へ移動する	●歩きやすい服装 ●徒歩で避難 ●事前に避難先を決めておく ●高齢者等の避難に協力を
0.5-3.0m の浸水 ●床上浸水、1 階全体が浸水 ●水流が強い場合には、木造住宅が倒壊する危険がある	垂直避難（※） 自宅や近くの丈夫な建物の 2 階以上にとどまる	●水、食べ物、簡易トイレ、懐中電灯、ラジオ、貴重品などを 2 階に持って上がる ●近所の高齢者等に声かけを
0.5m 未満の浸水 ●床下浸水 ●大人のひざ下程度 ●浸水の深さが、ひざ上になると歩行は危険	屋内避難 自宅にとどまる むやみな移動は、かえって危険	平屋にお住まいの場合は 0.5m 程度の浸水でも危険な場合があります。浸水しない場所へ避難しましょう。

（※）避難先への移動に十分な時間と安全な経路が確保されている場合

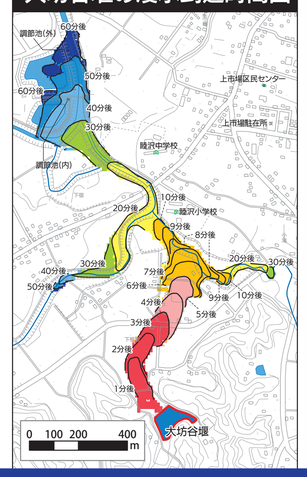
大坊谷堰・入山津堰・小谷堰・猿田の堰の浸水想定区域図

このマップは、常時満水の防災重点ため池が同時に決壊し、全ての貯水量が瞬時に流出する状況を想定して解析した浸水想定区域を示したものです。それぞれのため池が決壊した場合の結果を重ね合わせており、重なる場合は、メッシュ毎の値を足し合わせています。
実際の浸水区域は、決壊時の貯水量や堤体の被害の程度、土地利用状況等により、異なる可能性があります。また、他の災害（土砂災害など）が同時に発生することが考えられます。

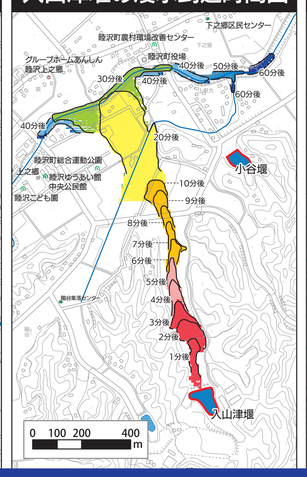


測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R 2JHs 646

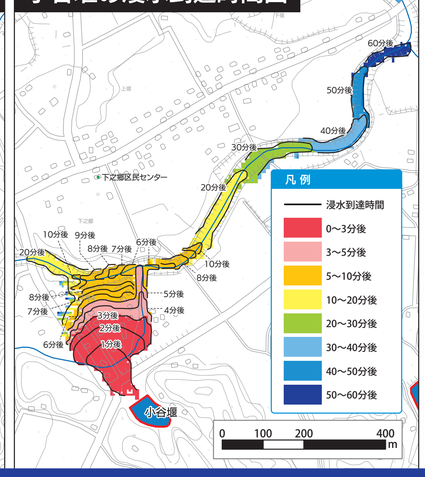
大坊谷堰の浸水到達時間図



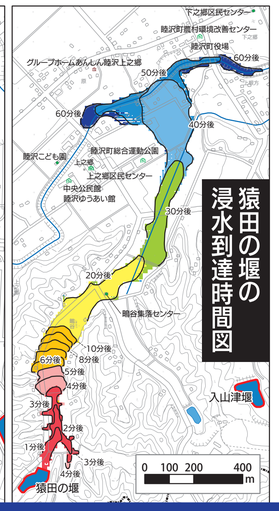
入山津堰の浸水到達時間図



小谷堰の浸水到達時間図



猿田の堰の浸水到達時間図



▶避難するときに注意すること

●ため池決壊以外の災害も意識する
ため池が決壊した場合、周辺に下記のような災害も発生している可能性があるので、注意しつつ避難してください。

●危険な場所から離れよう
災害が発生したら、避難する際は、できるだけ広い道を選び、塀や水路から離れて避難しましょう。

●浸水を見かけたら、遠く離れて、無理をしない
避難できる水の深さの目安は膝までなので、無理な移動は避けましょう。

●浸水した場所では、できるだけ高い場所を目指しましょう
浸水により、安全な場所へ移動できないときは、自宅の 2 階や、できるだけ高い場所を目指しましょう。

▶避難の心得

地震のとき

まず身の安全を！
ケガをしたら火の始末やが遅れてしまいます。家具の転倒、落下物には充分な対策を。

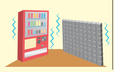
すばやく火の始末
揺れが収まったらすばやく行動。火元付近には燃えやすいものを置かない習慣を。

戸を開けて出口の確保
震動でドアが開かなくなることも、戸を開けて避難口の確保を。

火が出たらすぐ消火
万一出火しても天井に燃え移る前なら大丈夫。あわてず消火を。

あわてて飛び出さない
飛び出しはケガのもと。冷静な判断を。

狭い路地やブロック塀には要注意
ブロック塀や自動販売機は転倒の恐れが。すばやく広い場所へ避難を。



協力し合って応急救援
地域ぐるみで協力し合って応急救援の体制を。

山崩れ、がけ崩れに注意
居住地の自然環境を把握して二次災害防止の心掛けを。

避難は徒歩で
マイカーでの避難は危険なうえ緊急出動の障害に。ルールを守る心のゆとりを。

正しい情報を聞く
間違った情報に惑わされず、的確な行動を。

洪水のとき

浸水時に避難する際は、水で足元が見えないことが多いので慎重に歩きましょう。いざという時、どこへどの道を通って避難するのか、普段から確認しておきましょう。

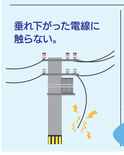
非常持出品は少なくする。

火の始末、戸締りを忘れずに。

ゴム長靴は歩きにくい。はきなれた底の硬い靴がよい。

消防団や役所の指示に従って行動する。

垂れ下がった電線に触らない。



家族はロープでつながって避難する。

水中のマンホールや溝に注意する。

逃げ遅れたときは丈夫な 2 階建て以上の建物に避難。

避難所までの安全なルートを事前に確認しておく。

▶非常持出品

避難時に持ち出す必要最低限のものをまとめ、すぐに取り出せる場所に保管しておきましょう。
※重さは**成人男性で 15kg、成人女性で 10kg** 程度までを目安とし、避難時に両手が使えるよう**リュックサックタイプ**のかばんを使用しましょう。

- □ 貴重品
- □ 懐中電灯
- □ 携帯ラジオ
- □ 応急医薬品
- □ ハザードマップ

- □ 非常用食品・飲料水
  - ●火を通さずに食べられるもの（カンパンや缶詰など）
  - ●レトルトのおかゆ
  - ●離乳食・粉ミルクなど

- □ 生活用品
  - ●衣類、タオル、マスク
  - ●おむつなどの衛生用品（ウェットティッシュ・洗面用具・生理用品など）
  - ●その他（軍手・ゴミ袋・携帯電話の充電器など）

▶災害時の安否確認方法

災害用伝言ダイヤル　171

NTTでは、災害時に電話で安否確認ができる「災害用伝言ダイヤル」を提供しています。利用にあたっては「171」をダイヤルし、利用ガイダンスにしたがって伝言の録音・再生を行ってください。一般加入電話、公衆電話、携帯電話、PHSから利用できます。

自分の無事を知らせるために 伝言を録音する
伝言を録音する ▶ 1 7 1 1 ▶▶▶ 自分の電話番号を市外局番から入力する ▶▶▶ 「録音」する（30 秒以内）

相手の無事を知るために 伝言を再生する
伝言を録音する ▶ 1 7 1 2 ▶▶▶ 相手の電話番号を市外局番から入力する ▶▶▶ 「再生」が始まる

▶わが家の防災メモ

家族で話し合い、確認しておき、いざというときに役立てましょう。

避難場所（家族の集合場所）

家の中の安全な場所

非常持出袋の場所

避難・救助用品の場所

令和 3 年 3 月作成　睦沢町役場産業振興課